

元気の  
赤い旗

半田町西部地区と交流

皆さん

赤い旗

一人暮らしや孤独感をなくし、お互いに元気に暮らすことを宣言し、参加したい人、意欲のある人から始め、四月目。東祖谷内でも、ツワリと広がりを見せているが、ついでに半田では、地域の皆さんが「何か出来るか」という気持ちで安心して暮らせるかを話しあうサロン活動の中で、東祖谷の

心と心  
つながる絆

たん  
新聞

10.3.No.154  
発行  
責任  
0883-86-5292



半田といえはそうめんが、さつそく、そうめんとおはぎが春食、うまさ二杯も食べました。その後、西部地区の旗立2大作戦の報告、東祖谷での報告の後、その地域の状況や悩みなどの意見交換がありました。西部地区では、男性の動きが弱くという声がありました。今回の交流会に参加されているのも下右の元気な顔の表情が大変印象深く、心に残りました。地域の皆さんが大好きな



活動に元気をもらって、地域みんなが旗立2大作戦との名称で活動をはじめ、旗を百本作ったけど不足する程の広がりを見せ、皆さんの笑顔が大きくなっているという。そんな半田地区から、ぜひ交流したいとの話があり、二月二十五日、はあば連の皆さんや地域の皆さんと、はあばの交流会へ。ちよと時間が遅くなったけど、西部地区の笑顔に迎えられた公民館に着く。

「元気だよろしの宣言は、西部地区の皆さんのように、住民自らの意志と熱意がなければ、その効果は広がりません。心により、本気、やる気、そして根気が必要だとおもいます。どこかの果でも、黄色の旗ではじめているからいけど、必要は活動はお金じゃありません。とまろ交流会では、西部地区の皆さんから元気をもらいました。ありがとうございました。また、年末に数回開催したサムライブコンサートに参加した木村さんにも久しぶりにお逢いすることが出来ました。同じ、地域への夢を持つ活動してること嬉しくなりました。

ら、大切にしたいと熱意をもち、社会福祉協議会を動かす、より深く着実に、人との絆が深まり安心して暮らし、連帯感が広まってくると思ひました。

